



ゆづりは

堺市立図書館だより

第19巻 第1号 (通巻70号)

発行日 令和6年6月10日

編集・発行 堺市立中央図書館

〒590-0801 堺市堺区大仙中町18-1

電話 072 (244) 3811

FAX 072 (244) 3321

<https://web.d-library.jp/SKI01/g0102/>

[libcontents/search/?gid=1025](https://web.d-library.jp/SKI01/g0102/libcontents/search/?gid=1025)



▲電子版

・堺市図書館まつりを開催しました！・

令和6年5月6日に中央図書館で堺市図書館まつりを開催しました。図書館を中心に活動しているボランティアグループとともに、絵本の読み聞かせや工作などを行い、子どもたちに本や図書館に親しみをもってもらうイベントです。

オープニングセレモニーの後、子どもたちも参加して恒例のくす玉割りを行いました。くす玉の中から色とりどりのお花や折り紙が降ってきて、図書館まつりのスタートに花を添えました。



集会室ではおはなしや絵本の読み聞かせ、人形劇、堺の伝説の語りなどを行いました。ロビーには自由に絵本を手にとって読むことができる「絵本のひろば」を設け、わらべうたや人形劇も行いました。どちらも会場がいっぱいになってしまうほど、多くの方に参加していただきました。



図書館前では「たのしい工作」と「あそびの広場」を行いました。「たのしい工作」ではビッグヨーヨーなどの工作を、「あそびの広場」では「色であそぼう」をテーマにして折り染めなど、たくさん子どもたちが楽しんでくれました。

また、中央図書館のバックヤードツアー「図書館探検」も行いました。普段は入ることができない書庫などが見学できる機会ということで、多くの方に参加いただきました。



たくさんの方が参加してくださり、大盛り上がりの堺市図書館まつりでした。

☆ご協力いただいたボランティアグループ☆

- ・絵本の会ふうせん
- ・絵本のひろば よついで！
- ・おはなしウーフの会
- ・おはなしかご
- ・おはなしそよかぜ
- ・おはなしどんぐり
- ・キッズパル
- ・くるみひろばの会
- ・こども文化ボランティアサークル ア・ラマ
- ・堺市子ども文庫連絡会
- ・人形劇団 座バリテ
- ・人形劇団 シャボン玉
- ・人形劇とおはなしのふう〜
- ・よみかせサークル はなしのたね
- ・わらべうたの会こめ

(五十音順)

(中央図書館総務課 こども室)

目次

- ・堺市図書館まつりを開催しました！ …1
- ・この本で解決！
「有名人について知りたい」 …2
- ・中図書館に ティーンズコーナー …2
ができました！
- ・シリーズ堺の〇〇「菅生神社」 …3
- ・『堺研究』第46号を発行しました …3
- ・司書のイチ押し 『免疫の意味論』 …4
- ・堺市立図書館電話番号一覧 …4

ゆづりは

とは…

中央図書館の正面玄関前に、堺生まれの詩人河井醉茗氏の歌碑があります。

年ごとに
ゆづりゆづりて
譲り葉の
ゆづりあとに
また新しく



この歌にちなみ、年月を経て、世代を越えても、次々に新しい情報をお伝えできるように、堺市立図書館だより「ゆづりは」と名づけました。

バックナンバーは

こちらから▶





有名人について知りたい

図書館に寄せられた様々な質問と回答を紹介します

Q 年末の紅白に出ていた歌手の Ado について知りたいです。人名辞典に載っていますか？

A 人物についての情報を調べるには、事典（百科事典、人名事典等）などが便利です。

ただ、事典や辞典は、一般的に事績や評価が確立した人物が掲載されています。発行頻度も高くないため、新たに注目されるようになった人物は載っていないことも多いです。

最近の話題になる人物について調べるなら、『現代用語の基礎知識』がおすすめです。

『現代用語の基礎知識』は、1948 年に創刊され、毎年年末に発行されています。“いま実際に” 使用されている用語・時事用語を政治・経済、世界情勢、科学・医療、情報・社会などのジャンル別に解説しています。巻末には、1984 年からの「新語・流行語大賞 全記録」も掲載されています。



『現代用語の基礎知識』
自由国民社／編集
自由国民社 2022

Ado さんに関しては、『現代用語の基礎知識』2022 年版の巻頭特集「2021 年のキーパーソン【人物ファイル】」に記述がありました。

それを見てみると、当時の Ado さんは現役女子高校生。2017 年、歌ってみた動画をニコニコ動画にアップする活動を開始。2020 年 10 月 syudou が作詞作曲した「うっせえわ」でメジャーデビュー。21 年 2 月にはオリコンのデジタルランキング、ストリーミングランキングで 1 位を記録、とありました。（『現代用語の基礎知識』自由国民社／編集 自由国民社 2022 p.8 より）

用語事典として利用するだけでなく、過去に起こった出来事やニュースを振り返ってみる……そんな利用の仕方も面白いかも知れません。

小・中学生にもわかりやすいように編集した『現代用語の基礎知識学習版』も発行されています。こちらもぜひ手に取ってみてください。

（初芝分館 レファレンス担当）

『現代用語の基礎知識学習版』
現代用語検定協会／監修
自由国民社 2024



中図書館に ティーンズコーナーができました！

中図書館に、中学生・高校生に向けた本棚・ティーンズコーナーができました。勉強・進路・家族や友達との人間関係……、考えることが盛りだくさんな 10 代の皆さんに役立つ本を揃えています！ もちろん読んで楽しい小説や趣味の本もあります。

今年度は近隣の高校・大学とのコラボも実施中！ 学生さんが考えてくれたテーマでのブックフェア、「おすすめ本の紹介 POP」の展示も、月替わりで行っています。中図書館に来たら、ぜひティーンズコーナーをのぞいてみてください。（中図書館 担当）

ホームページには
おすすめの本の
ブックリストも
掲載しています。



▲中図書館
ティーンズコーナー



シリーズ

堺
の〇〇

菅生神社（すごうじんじゃ）

堺市美原区菅生にある神社で、天児屋根命（あめのこやねのみこと）と菅原道真を主神として祀っています。菅生天満宮とも呼ばれますし、菅生と菅原で「菅」の字が共通していますので、当初から菅原道真を祀っていたと思われるのですが、実は菅原道真が生まれた9世紀より前、8世紀には神社があったと考えられています。言い伝えでは、この地域を本拠地とした菅生氏が、祖先とされる天児屋根命を祀ったことが神社の始まりであるそうです。

さて、この菅生神社で有名なものと言えば、菅沢（すがさわ）と本殿の2つでしょう。

菅沢は菅生神社にある池で、伝説では菅原道真が突然ここに誕生したとされています。菅生神社の宝物である『北野天神縁起絵伝』にもその場面が描かれており、その解説書『菅原相十二幅絵伝畧記（かんしょうじゅうじゅうにふくえでんりゃっき）』では、菅沢に忽然（こつぜん）と現れた5、6歳の神童が京都の菅原是善（すがわらのこれよし）のところまで送るように言うので黒木の神輿（みこし）で送ったところ、菅原是善が養子としたとなっています。



『菅原相十二幅絵伝畧記』

本殿は江戸時代前期、1661年に建立されたもので、一間社春日造（いっけんしゃかすがづくり）という建築様式をしています。当時の特徴をよく示す神社建築ということで、2006年に堺市指定有形文化財となり、その後2年をかけて保存修理が行われました。江戸時代に出版された『河内名所図会』にも描かれていますのでぜひ比べてみてください。



江戸時代の菅生神社
（『河内名所図会』より）

参考文献

★印は貴重資料です。ご利用には事前申請が必要です。

- ★『菅原相十二幅絵伝畧記』[江戸時代]
- ★『河内名所図会』秋里籬島／著 浪華書林 1801
- 『平成の社殿大造営』[菅生天満宮平成の社殿御造営奉賛会／編] 菅生天満宮平成の社殿御造営奉賛会 2008
- 『堺市指定有形文化財菅生神社本殿修理工事報告書』大上建築研究所／編集 菅生神社 2008
- 『菅生神社の文化財』堺市立みはら歴史博物館／編集 堺市立みはら歴史博物館 2009

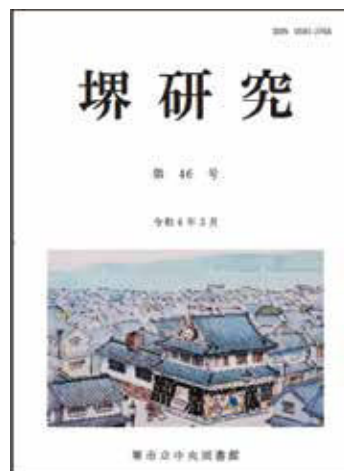
（中央図書館 地域資料担当）

『堺研究』第46号を発行しました

堺市立中央図書館発行の郷土研究誌『堺研究』は、昭和41年発行の第1号から当館所蔵史料の紹介や堺に関する論考を掲載してきましたが、令和6年3月発行で第46号となりました。

今号の内容は、吉田豊氏（元堺市博物館学芸課長）の「中世の会合衆と商業都市堺」、古澤夕起子氏（同志社女子大学嘱託講師）の「与謝野晶子は堺における少女期をどのようにして描いたか—随筆、評論、詩を通して—」、岡田光代氏（大阪公立大学准教授）の史料紹介「和泉国大鳥郡土師村小林家文書について」の3本です。1冊640円で販売中。購入ご希望の方は中央図書館まで。

（中央図書館 地域資料担当）





司書のイチ押し



免疫の意味論

多田富雄／著 青土社 1993

怪我をしても風邪をひいても、いつの間にか治っている。人間の体の不思議さよ。その不思議を調べたくていろいろな本を漁っていたら、「免疫」という言葉にたどりついた。「免疫」。うん、知ってる。ワクチンとかそういうヤツね。ジェンナーの伝記を小さい時に読んだあとは、花粉症も免疫が関係しているとか、知識としてはそこ止まり。でも、「免疫の意味」とは。タイトルにひかれて読んだのがこの本。

著者の多田富雄は免疫学者。この本では、免疫のしくみを当時の研究成果も踏まえ、非常に詳細に解説してくれる。胸腺 (Thymus) 由来の T 細胞、骨髄 (Bone marrow) 由来の B 細胞など、昨今アニメーションでも取り上げられ、おなじみとなった細胞たちがどのような構造をしていて、どのようなしくみで働くのかがわかる。その過程はとても複雑で、精密で、そしてある意味とても大雑把。

免疫のしくみの説明のところは難しいけれど、図や検査法などを入れ、端折ったりすることなく丁寧に解説されている。なんとか読み終えて、不思議に思ったのが、免疫のしくみそのものを司る臓器が存在しないこと。もちろん先にあげた胸腺や骨髄が重要な役割を担っていることは確かだが、特定の臓器が抗原を解析することもない。抗体を作り出すということもない。免疫とは、マクロファージ、T 細胞、B 細胞、樹状細胞、NK 細胞などがお互いに関与しあい、それぞれの役割を果たすしくみ、言いかえればネットワークだという。しかも、抗体の反応の方向、性質を決定する原理はまだ見つかっておらず、「免疫ネットワークには

神が不在である」とこの本は言う。

わたしたちは自分の脳で自分自身を認識していると思っている。傷を負ったらそこが痛いし、他の人と自分が違うことはちゃんとわかる。しかし、免疫のしくみは自分の脳がどう思うかにかかわらず、自動的に発動する。そして時には自分に対して免疫反応をおこし、自己溶血性貧血等の様々な病気において、症状を引き起こす。免疫系の細胞たちが普段「自己」に対して反応しない＝寛容であるのは、確固とした「自己」がア・プリオリに定義されているということではなく、「自己」に対して寛容になる複雑なしくみがはたらいているというのだ。免疫の自己反応性は「条件主義的あるいは確率論的」に抑えつけられているに過ぎない、と。免疫という視点からみると、「自己」と「非自己」の境界は曖昧である。曖昧につながる「自己」と「非自己」でありながら、その時々で「自己」の同一性は保たれている。「免疫の意味」とは、自己と非自己を誤りなく峻別することではなく、ゆるやかなつながりや試行錯誤のなかで自己をぼんやりと浮かび上がらせることだ。そして、生命にとって自己とは何か、我々が当たり前に関わっているものが本当に自己なのか、問いかけてもいるようにうつる。私にとっては、自己とは何なのかを考える機会に巡り合うたびに思い出す一冊である。(S・S)



『免疫の意味論』多田 富雄／著
青土社 1993

堺市立図書館電話番号一覧

中央図書館	244-3811	西図書館	271-2032	人権ふれあいセンター船松人権歴史館	
くすのき号	244-3811	南図書館	294-0123	人権資料・図書室	245-2534
堺市駅前分館	222-0140	梅分館	296-0025	青少年センター図書室	228-6331
中図書館	270-8140	美木多分館	296-2111	図書館カウンター堺東	232-1011
東百舌鳥分館	234-9600	北図書館	258-6850		
東図書館	235-1345	美原図書館	369-1166		
初芝分館	286-0071				



▲図書館 HP

<https://www.city.sakai.lg.jp/kosodate/library/>